

# 全科協ニュース

1985年9月1日発行  
(通巻第85号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園  
国立科学博物館内

〒110

tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容：◇ハレー彗星に関する活動について ◇ヤマガタダイカイギュウ骨格模型完成 山形県立博物館  
◇実験展示の企画の進め方(2) 科学技術館 ◇いわき市石炭・化石館 ◇全科協北から南から  
◇お知らせ

## ハレー彗星に関する活動について

1910年に素晴らしい姿をみせたハレー彗星が、76年ぶりに帰ってきます。

全科協の加盟館圏では、ハレー彗星をテーマにした活動が予定されています。全科協ニュース編集委員会より各館にアンケートをお願いしましたところ、108館からの回答が寄せられました。

今後、実施状況や報告を集めて、全国的に行われたハレー彗星関係の活動をまとめてみたいと思います。以下各館の活動内容を列記します。

なお、文中①は投影(テーマ, 期間)②講演会・教室(テーマ, 月・日, 講師名, 外は外部講師, 内は館職員)③特別展示・展示品(テーマ, 期間)④観測会・観望会(月・日, 場所)⑤その他のイベント・収集資料等

### 札幌市青少年科学館

①ハレー彗星PART I (3・10~7・14) ハレー彗星PART II (7・21~11・24) ハレー彗星PART III (12・1~'86・3・9) 星空へのいざない・ハレー彗星(12・10~12・15) ②ハレー彗星の正体(7・14) 小尾信彌(外) ③ハレー彗星大探検(7・27~8・18) ④(11・上旬3日間) 場所未定

### 旭川市青少年科学館

①おひさしぶり・ハレーです(11・1~11・29) ②ハレー彗星の正体(7・12) 小尾信彌(外) ハレー彗星の観測(11・24)(外) ④(12・下旬) 旭川市天文台

### 盛岡市子ども科学館

①秋の星空とハレー彗星(9・1~11・24) ②星と音楽の夕べ・ハレー彗星のはなし(7・6) 菊池成夫(内) ③ハレー彗星情報(6・1~'86・3・31)

### 斉藤報恩会自然史博物館

②ハレー彗星・宇宙の神秘(12・末) 竹内(外)

### 秋田県立子ども博物館

①ハレー彗星(8・1~9・30) ハレー彗星('86・4・1~4・30)

### 郡山市児童文化会館

①ハレー彗星について(9・~'86・3・) ②天文に関する映画教室('86・2・2) ③ハレー彗星がやってくる(10・初旬~11・末) ④(11・19, 12・19, '86・1・18, 3・19) 天文学習室

### 浅間園浅間火山博物館

④(12・~'86・3・) 浅間園展望台

### 川口市立児童文化センター

①惑星旅行(11・1~12・29) ②彗星の観測法(12・15)(内) ③彗星('86・3・下旬~4・下旬) ④(12・, '86・3・~4・) 児童文化センター天文台

### 千葉市立郷土博物館

①ハレー彗星物語(7・2~8・31) ②ようこそハレー彗星(8・3) 富田弘一郎(外) ハレー彗星の探査(86・3・8) 的川泰宣(外) ③ハレー彗星展(7・20~9・29) ④(12・7) 千葉市立葛城中学校

### 国立科学博物館

②彗星の物理(8・17) 渡部潤一(外) ④(11・23) 茨城県, ('86・3・) 会場未定

### 五島プラネタリウム

①ようこそハレー彗星(8・1~9・1) ハレー彗星を見よう(10・1~10・31) いよいよ接近! ハレー彗星('86・3・1~3・31) ②ハレー彗星観測のすすめ(4・19) 齊藤馨児(外) ハレー彗星の歴史(8・5) 長谷川一郎(外) ハレー彗星の観測(8・6) 香西洋樹(外) ハレー彗星の探査(8・7) 的川泰宣(外) ハレー彗星大研究(9・8) 増沢等(内) ハレー彗星観測のすすめ(9・15) 村松修(内) ③ハ

レー彗星大研究 (7・21~9・1) ハレー彗星情報コーナー (4・~'86・4・) ④ (11・17, 12・1, 12・22) 館屋上 (11・9, 1泊) 秩父⑤天文台工作のつどいーハレー彗星早見板を作ろう (8・17~18) 彗星に関する書籍・写真・その他資料

#### 東京都児童会館

②第2回夏休み天文工作のつどい・ハレーすい星早見板を作ろう (8・17~9・18) 豊川秀治(外)国司真(外)木村直人(外)落合善郎(内)

#### サンシャインプラネタリウム

①ハレー彗星 part 1 地球に迫る異常気象 (3・10~6・2) ハレー彗星 part 2 エドモンド・ハレー物語 (9・8~12・1) ハレー彗星 part 3 ハレー彗星の最新映像 (12・8~'86・3・2) 12月の星座と夜空のハレー彗星 (12・1~12・31) 3月の星座と明け方のハレー彗星 ('86・3・1~3・31) ②特別講座ハレー彗星の軌道 (11・) (外) ハレー彗星の写真観測 (12・) (外) 彗星探索へのいざない ('86・1・) (外) ハレー彗星探査の全貌 ('86・2・) (外) 彗星科学の最前線 ('86・3・) (外) ③ハレー彗星観望の道具たち (3・10~9・1) ハレー彗星と隕石 (9・8~'86・3・2) ④ (11・16, '86・1・5) 館前の広場⑤ハレー彗星国内ツアー(12・)第3回サンシャインプラネタリウム天体写真コンテスト(特別部門彗星の部設置)入賞作品展  
**神奈川県立青少年センター**

①ハレーすい星を見よう (11・1~11・30) ②ハレーの話 (7・20) 富田弘一郎(外) ④ (12・5, '86・1・7, 1・14) 館屋上

#### 新潟県立自然科学館

①秋の星空とハレー彗星 (9・11~12・1) ④ (11・15, 12・14) 館屋上⑤60cmカセグレン式反射望遠鏡による資料収集を行ない報道などにより県民に示していく。またハレー彗星の状況によりイベントも流動的に計画する。

#### 富山科学文化センター

①ハレー彗星ってなァーに (9・21~12・1) ハレー彗星をさぐる (12・10~'86・3・2) ②暗いハレー彗星を見る会 (11・15~16) 布村(内) ハレー彗星観測会 (12・6~7, 12・11~14) 渡辺(内) やさしい科学の話「ハレー彗星」(11・3) 渡辺(内)③ハレー彗星の軌道模型, 運行図, 写真等 (9・21~'86・5・) ④ (11・15~16, 12・6~7, 12・11~14) 富山市立天文台

#### 山梨県立青少年科学センター

①ハレー彗星とその仲間たち (8・3~8・31) ハレー彗星の観望 (9・3~9・30) ②ハレー彗星とその見方 (8・20) 宮沢忠治(内)③宇宙のスパースターハレー彗星の写真・図書資料展示 (10・1~12・1) ⑤ハレー彗星に関する写真・図書資料を収集

#### 静岡市立児童会館

②ハレーすい星について (11・16) 加藤醇一郎(外)岩崎光宏(内)ハレーすい星観測法 (11・23) 加藤醇一郎(外)岩崎光宏(内) ハレーすい星観測 に関しての技術 (11・13) 岩崎光宏(内)ハレーすい星の観測 (11・30) 岩崎光宏(内)

#### 浜松市児童会館

①宇宙のなぞ「ハレー彗星」(7・28, 8・4, 8・11, 8・18, 8・25)

#### 市立名古屋科学館

①おかえりなさいハレー彗星 (8・1~8・30) さようならハレー彗星 ('86・3・1~3・31) ハレー彗星騒動記 (8・17~) ②ハレー彗星 (10・27) 村山定男(外)こんにちはハレー彗星 (12・1) 香西洋樹(外) さようならハレー彗星 ('86・3・16) 帰ってくるハレー彗星 (1・24) 永田宜男(内)ハレー彗星観望の手引き (9・26) 永田宜男(内) ④ (11・28, 12・15, 12・17, 12・18) 館屋上⑤海外ツアー(天文クラブ) オーストラリア, サイパン(計画中)

#### 京都市青少年科学センター

①帰ってきたハレー彗星 (12・1~12・25) 彗星にメスを入れる (2・1~2・28) ②ハレー彗星の再来 (8・10) 宮本正太郎(外)帰って来いハレー彗星1~近づくハレー彗星 (9・14) 蓮井隆(内) 帰って来いハレー彗星2~万有引力の法則 (10・12) 蓮井隆(内)帰って来いハレー彗星3~過去・未来のハレー彗星 (11・9) 蓮井隆(内) ④ (12・10, 12・11) 館内

#### 大阪市立電気科学館

①近づくハレー彗星 (11・1~11・30) 南国の空は今 ('86・2・1~2・28) ②ハレー彗星への期待 (8・10) 黒田武彦(内) ハレー彗星の観察法 (8・24) 菊岡秀多(内) ③ほうき星をたずねて一近づくハレー彗星(8・1~9・1) ④ (12・7, 12・8) 場所未定 ('86・4・4~4・7) フィリピン・セブ島

#### 明石市立天文科学館

①ハレー彗星の歴史 (8・1~8・30) ハレー彗星接近中 (11・1~29) ハレー彗星接近中 (12・1~12・26) ハレー彗星Uターン ('86・2・2~2・28) ハレー彗星とのランデブー (3・2~3・31) ②ハレー彗星ニュース (11・17) 菅野松男(内) ハレー彗星ニュース (12・1) 西海洋一(内) ハレー彗星ニュース (12・8) 河野健三(内) ハレー彗星ニュース (12・15) 菅野松男(内)ハレー彗星ニュース ('86・2・16) 河野健三(内) ハレー彗星ニュース ('86・3・16) 菅野松男(内) ④ (11・17, 12・1, 12・8, 12・15, '86・1・12) 館観測室⑤天文科学館開館25周年を記念し, 日本彗星会議を招聘 ('86・2・8~9) 明石市民会館



## 生駒山宇宙科学館

①ウエルカム・ハレー (3・16~6・9) ②彗星について調べよう (3・24) 濱根洋(内) ようこそハレー彗星・太陽系の旅 (8・24) 濱根洋(内) ③'84帰ってくるスペース・トレインハレー彗星のすべてPART-I ('84・3・15~6・10) '85帰ってくるスペース・トレインハレー彗星のすべてPART-II (3・22~6・9)

## 津山科学教育博物館

②ハレー彗星について ('86・3・10) 森本謙三(内)

## 広島市こども文化科学館

①ハレー彗星がやってくる ('83・12・10~'84・3・4) ハレー彗星を見よう (12・7~'86・3・23) ②ハレー彗星をみよう (3・30) 佐藤健(内) ハレー彗星がやってくる (3・31) 村山定男(外) ③ハレー彗星がやってくる (3・23~3・31) ハレー彗星 ('86・1・中旬~3・中旬) ④計画中 ⑤展示品貸出し

## 萩市郷土博物館

②ハレー彗星を勉強する会 (5・9, '86・3・11) 萩天文同好会会員(外) ③ハレー彗星と萩の空 (4・29~5・12) ④月日未定, 萩市郷土博物館

## 北九州市立児童文化科学館

①一般投影の中に10分程度, 話題として挿入③ハレーすい星コーナー (3・17~'86・4・30) ④月日未定, 館内

## 福岡市立少年科学文化会館

①ようこそ! 地球へ~ハレー彗星の科学 I ~ (9・1~11・27) サヨナラ! 太陽系の旅人~ハレー彗星の科学 II ~ (3・1~5・28) ②ハレー彗星の科学 (12・15) 未定(外)③ハレー彗星と宇宙探査 (11・23~12・15) ハレー彗星写真展 ('86・3・上旬~下旬) ④ (12・9~15 及び '86・1・11~19 の土・日曜) 屋上天文台⑤天文映画会 (11・, 12・, 3・, 4・, 第3日曜日) 星と音楽の夕べ (8・10, 12・21)

## 群馬県立歴史博物館

③隕石(実物)の展示と解説 ('86・1・6~1・31)

## &lt;新 展 示&gt;

## ヤマガタダイカイギュウ骨格模型完成

## 山 形 県 立 博 物 館

昭和53年8月, 山形県西村山郡大江町の最上川の河床の岩盤から発見された大型の動物骨格化石は, 18世紀に乱獲により絶滅したステラーカイギュウの先祖であり, アメリカ, カリフォルニアで発見されたジョルダンカイギュウの直系の子孫であることが判明し, ヤマガタダイカイギュウと命名した。

ジョルダンカイギュウは, 12本の歯と前肢には5本の指骨を持つが, ステラーカイギュウは, 歯も前肢の指骨も退化して持っていない。ヤマガタダイカイギュウは, 12本の歯(うち10本発見)と, 貧弱な指骨を持っている。形態的には, ジョルダンカイギュウにより近いが, ちょうど中間の新種でダイカイギュウの進化を解き明か

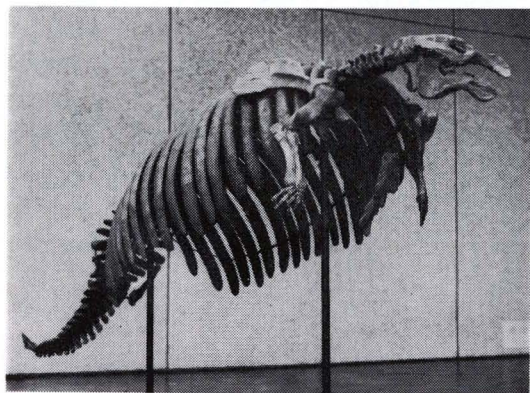
す貴重な資料である。

本館では, 昭和53年以来年次計画により, この貴重な資料の整備と調査研究をすすめてきた。

ヤマガタダイカイギュウ化石の産状は頸椎から折れて頭骨, 下顎骨を逆さにし, 13個の胸椎と28本の肋骨, 左前肢をのばし, 右前肢を胸側に曲げた状態であり, 肋骨の一部, 尾椎は欠損していた。

昭和58年度には, レリーフ状にクリーニングを行った化石の産状模型を製作し, 昭和59年度, 全身骨格模型の製作を行った。骨格模型の製作にあたっては, 欠損部分の一部胸椎, 肋骨, 腰椎, 仙骨, 尾椎などは, 先祖のジョルダンカイギュウの計測値を参考にして造形した。化石の湾みは, 可能な限り修正した。化石既存部分と欠損部分の区別ができるように彩色し, ポーズは動きのある表現にした。体長3.8メートル, 胴まわり3.5メートルの骨格模型が完成した。

このヤマガタダイカイギュウ骨格模型の完成を記念し「化石が語る, 太古のロマン」の特別展を企画した。開催期間中(昭和60年4月27日~6月2日)には, 多数の見学者が来館し, この骨格模型に見いていた。この特別展に関しては, 全科協ニュース Vol. 15, No. 3で紹介された図録があり, ほかに, 「ヤマガタダイカイギュウ発掘調査報告書」を刊行したので, 合わせてご覧いただきたい。(高橋静夫)



## 〔展示研究〕

## 実験展示の企画の進め方(2)

—放電実験の技術的側面を一事例として—

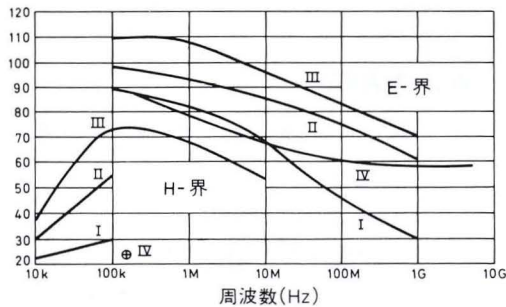
## 科 学 技 術 館

## 電磁波遮断のための具体的対策

## (1) ガラス面での対策

A社製のシールドウィンドを使用し(注6)、ガラスでサンドイッチした場合、200 K Hz の時、電場 150 dB、磁場 73 dB。T社での実験では、2V P-P に減衰させればコントローラに支障がないことが分ったため、ノイズレベルを MAX 20V P-P として電圧比 20 dB の減衰で問題が解決する。

A社製シールドウィンドでは、ほぼこの数値をクリアーできる(注7)。尚、これはノイズ源の近接の場合であり、実際はコントローラの間距離がある(50 Hz の場合はデータがない)。シールド効果は図3を参照。



※図3 MIL-STD-285 に基づく測定

- I 一重メッシュ 300×300mm
- II 一重メッシュ 150×100mm
- III 一重メッシュ 100×100mm
- IV 二重メッシュ 500×500mm

## (2) 壁面での対策

①0.1%~0.5%程度の鉄板を貼る。

②導電性コーティング塗布する。ただし、この場合、減衰量が少ないこと、および体積抵抗値が大きいためにあげられる。また経年変化で塗料の剝離が生じる。従って、これは補助的役割での使用が望ましい(注8)。

## (3) 排気口での対策

シールドハニカムを使用する(注9)。200 K Hz の場合 110 dB の減衰であるため、必要減衰量 20 dB をクリアーできる数値である(図4参照)。

上述の対策を施した結果、シアターの制御部にはノイズが回りこまずにクリアーされた。

以上当館の放電実験を事例として述べたが、とにかくこの種の実験展示は企画が先行しやすく、後から技術的にフォローすることになりがちである。最も大切なことは、実験の“現象”を見学者にいかに見せるかという外

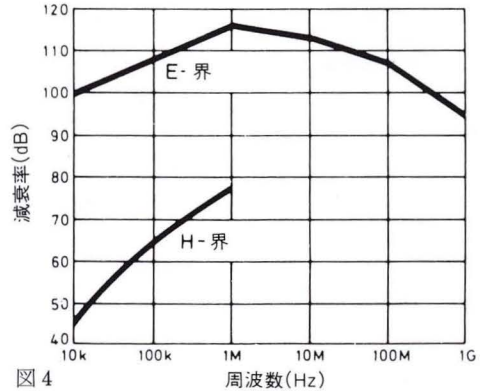


図4

向きのベクトルと、他の展示物に及ぼす影響やメンテナンス・保全等その現象のもつ内向きのベクトルをバランスよく調和させることである。

目に見えるものだけでなく、見えないものも含めて検討するのが我々の職務と言ったら大袈裟だろうか。計画(plan)→実行(do)→評価(see)の流れに従えば、企画→製作→評価(注10)の一連の流れの中で技術的側面を検討することは重要なことである。企画と技術は車の両輪のように互いに補い合って進めるべきものである。

一方では、なぜこのような問題(現象呈示方法論)に一生懸命になるのかという議論がなされることがある。しかし、試行錯誤しながら、その方法を模索するのは、「科学とは何か」の本質を追求してきた人類の知的営みの現代的な表現——科学の美——が実験の現象の中に見い出せるからである。これを呈示することによって来館者に知的満足を与えることができるからである。

今後、この放電実験は5年間展示する予定であるが、初期故障等を含め、その都度、検討していかねばならない問題点が出てくると思われる。しかし、守秘主義になることなく、機会があればまたご報告したい。諸氏のご批判をお待ちしている次第である。

(注6) シールドウィンドは透過性があり、構造は2枚のガラスの中間に導電メッシュをセットする。

(注7) 施工後、B社に依頼してシールド室の電界強度測定試験を行った結果、与条件 200 K Hz において 20 dB を満足していた。

(注8) 推奨コーティング剤 ELDEC, EM-9500~9510 大日本インキ化学株

(注9) ハニカムシールドパネルはアルミニウムをベースとした軽く通気抵抗が少ないシールドパネルである。シールドウィンド共北川工業株製

(注10) ここでは、技術的な評価のことであるが来館者の立場からの評価もある。これは何を以って評価基準とするかはまた別の重要な問題である。





## ＜新入会館園紹介＞

# いわき市石炭・化石館

館長 御所脇 八洲男

所在地：福島県いわき市常磐湯本町向田3-1

電話：0246 (42) 3155 (代)

いわき地方は、1855年（安政2年）片寄平蔵が、石炭を発見して以来、昭和51年9月最後の炭鉱が、閉山するまで、約120年の間、石炭によって発展してきた地域であります。常磐炭田の中心地であり、全盛期には、事業所の数も128鉱になり年間400万トンを生産する、本州最大の炭田地帯でありました。

その石炭は、昭和30年代以降、エネルギー革命の名のもとに、石油にエネルギー主役の座を、明け渡し衰退の一途をたどりました。

長い間、石炭とともに生きた人々の心の中には、石炭への郷愁が根強く残っており、いわき地方を形成し、発展させた炭鉱の姿を、後世に残し伝えたいと強く望んでおりました。

また、当地方は、地質学的に、火成岩、変成岩のほか古生代、中生代、新生代の各地層が分布し、ここから、学術上、貴重な動植物の化石が、数多く発見されています。

いわき市石炭・化石館は、かつて産炭地として繁栄した当時の資料を一堂に集め、さらに、日本の誇るフタバズキリュウをはじめ、市内各地で発掘された貴重な化石に、豊富な資料を加えて、教育文化の発展と、地域経済の振興を図る目的で、建設されたものです。

展示の概要を、ご紹介いたしますと

### 1) オリエンテーションホール

この展示室は、館全体のイメージを象徴するコーナーです。壁面には地元四倉町で発見されたクジラ化石の産状模型と、天井には長さ12.4mのニタリクジラ（現生）の骨格標本が、対比できるように展示されています。

また、常磐炭田の各炭鉱の所在地、各化石の発掘地点の分布図が展示され、ランプの点滅により確認されます。

常磐炭田、古第三紀石城層より産出された大石炭塊（およそ1トン）も展示されております。

### 2) 化石展示室

- 時の流れ、地球46億年の歩みのイラスト
- いわきの第四紀、段丘の分布図、大原の貝等
- いわきの化石クジラ時代、クジラ、ゾウ、イルカ、デスモスチルス等
- フタバズキリュウ

- マメンチサウルス
- アンモナイト
- いわきの三葉虫時代
- いわきの大地

以上、いずれも化石、模型により見易く展示されています。

- 3) 第二展示室 炭鉱のしくみがビデオ、模型により、また、実際使用された道具類が展示されています。
- 4) 模擬坑道 初期の採炭（狸掘り）から、閉山時の採炭状況までを、等身大人形により、リアルに再現しています。
- 5) 第3展示室 炭鉱のくらし、湯本温泉史が展示されています。
- 6) 屋外展示場
  - 大型機械 炭鉱で使用された大型機械の展示
  - 岩石園 いわき番方の岩石30数種類
  - 植物園 石炭と植物の系統進化に関係する樹木をいわきの現植物の中から選んで植栽
  - S L (D51946号) 常磐炭田の石炭輸送に活躍したD51型蒸気機関車

以上のほかに、最近発見されて話題となった、3500万年前の陸地に住んでいた猪豚のなかまメジカ、波打ちぎわ、海上に住んでいたプロトプテルム等。

玉山層（8000万年前の番層）から採取した虫入り琥珀を特別展示し、更に、1600万年前のステゴロフォドンの下顎（保存状態の良好のもの）が発掘されており、近期中に追加展示を予定しております。

以上が、当石炭・化石館の概要であります。昨年10月18日に、開館以来、大変好評を博し、8月現在25万人の観覧者がありました。一層施設の充実を図り、より多くのお客様を迎え、満足頂けるよう職員一同、努力しております。

なお、当館の展示内容をカラー写真やイラストで詳しく解説した展示解説書「いわきの化石と炭鉱の歴史」A4判 33P.を作成しました。小・中学生にも楽しく展示見学ができるように、分かりやす解説文を使い、親子で一緒に見学する際に父兄の参考になり、子供の質問に答えられるようなヒントを脚注に設けてあります。

## 全科協 北 から 南 から

## 65cm反射望遠鏡 一般公開

## 市立名古屋科学館

市立名古屋科学館は、屋上の天文台ドームに口径65cmの反射望遠鏡を設置、付属の各種機械の調整が全て終わり、7月21日の「土星を見る会」から一般に公開した。

この天体望遠鏡の焦点距離はカセグレン式で8450mm、ニュートン式では3250mm、切り替えはスイッチ一つでできる。ニュートン式の場合、光路を135°曲げて接眼部に導く変形ニュートン式を採用した。他に、15cmと10cmの屈折望遠鏡（案内用）、8.5cm屈折太陽プロミネンス専用望遠鏡などを合わせて持つほか、モニター用テレビカメラが装備されている。光ファイバーを用いたVTRシステムと大型プロジェクターを接続して、観測中の天体の姿を一度に大勢の見学者に見せることができることも、大きな特徴である。年々高層ビルも増える名古屋市なので、市街光などの悪条件に影響を受けにくい工夫もされている。

今後は、月や木星の観望会も定期的に開催していく予定であり、市内だけでなく、近郊からも利用が増えることになろう。

## 「資源を探す科学展」開催中

## 豊橋市地下資源館

豊橋市地下資源館では、昭和60年7月21日～11月24日まで、「資源を探す科学展」—地球誕生の謎と資源探査の歴史—と題した特別展を開催中である。地下資源の形成、資源と人類のかかわりの歴史、新しい資源探査技術や郷土の資源を紹介している。

展示には、日本最古の岩石、日本最古の化石をはじめ珍しい隕石の展示なども含まれている。地球や地下資源がどのようにできたのか。人類はその資源をどのように見つけ、利用してきたのか。身近な地下資源にはどんなものがあるのかなど、子どもたちにも分かりやすいテーマを中心に実物資料、解説パネル、実験装置を用いて解説している。同館の1階の常設展示の内容も効果的に組み合わせ、展示の構成に工夫がされている。

この夏休み中には、小・中学生の入館者が多く、大変好評であった。また、この特別展の期間中に、資源・エネルギーに関する夏休み自由研究相談も開催し、テーマの選び方、研究の方法について答えることもした。

## 「電気の科学館」来年夏 オープン

## 電気文化会館

電気文化会館は、昭和61年の夏に開館する予定で中部

電力（株）が、名古屋市の伏見に建設をすすめている。この会館の中に「電気の科学館」が、同時にオープンする。電気について一層理解を深めてもらえるように、電気の歴史、発電のしくみ、原子力発電などについて大型の模型や立体映画で紹介したり、電気を使って不思議な体験ができるコーナーも用意されている。双方向映像シアターでは、テレビカメラとキーボードを使って、見学者がスクリーンに参加でき、人気の的になることだろう。会館には、コンサートホール、ギャラリー、イベントスペースなども併設され、市民に新しい文化活動の場を提供することになる。

## 立体映画「3-Dワールド」オープン

## 白浜エネルギーランド

西日本では初めての立体映画ホールが7月6日から、和歌山県の白浜エネルギーランドにオープンした。従来同エネルギーランド本館にあった映像ホールを一部改装し、映写機、スクリーンなども立体映画用に替えて、新装したものである。立体映画の常設施設としては、関東地区の遊園地2箇所に続く、3番目となる。

この立体映画にはポロライド式を採用し、見学者は、偏光フィルター付きのメガネをかけて映像を楽しむ。プログラムは、メインテーマを「海」として、海的美しさ、生命の誕生などを12分間にわたって、縦2.5m、横5.7mの指向性シルバースクリーンで上映する。収容人員は、112名。

## 〔出版物〕

## 特別展カタログ・展示解説

## ○特別展「木地屋の世界」図録

神奈川県立博物館では、特別展「木地屋の世界」（昭和60年9月1日～10月6日）を開催する。木地屋は、かつて全国の山中を渡り歩いて、盆・椀等を生産していたが、時代の変化とともに各地の漆器産地などに定住し、日本の工芸史に大きな足跡を残した。神奈川県下には、大山こまと箱根細工の木地屋が知られている。

この特別展では、木地屋の歴史的背景に留意しながら、生活用具、信仰用具、生産道具および製品などを展示し、木地屋の世界を紹介する。会期中には、講演会、実演、展示解説、映画会も行う。この特別展の内容を紹介する図録（B5版 72P、予価1000円）と、リーフレット（無料）が用意されている。

問い合わせ先：神奈川県立博物館 学芸部

電話（045）201-0926



## ○「埼玉県立自然史博物館展示ガイド」

埼玉県立自然史博物館では、オリエンテーションホール、地学展示ホール、生物展示ホールの展示内容を詳しく解説した展示ガイドを出版している。B5判、58ページの中にカラー写真を多数掲載し、小・中学生に分かりやすい説明文とイラストで、埼玉県の自然史が総合的に理解できる。巻末に展示資料の目録も付いており、便利なガイドブックである。

問い合わせ先：埼玉県立自然史博物館 学芸部  
電話 (0494) 66-0404

## ○「常設展示解説シート集」

労働省産業安全技術館は、常設展示の各コーナー毎に用意されている解説シート（B5判）を一つの冊子にまとめた。各展示コーナーのねらい、展示の背景となる基礎知識、展示の見方、展示内容の概略などが丁寧に解説されている。専門的で高度な安全技術に、一般の人でも興味を持って展示が見学できるように配慮されている。

問い合わせ先：労働省産業安全研究所付属  
産業安全技術館  
電話 (03) 453-8441

## ○「展示解説〔理工編〕—水と雪の世界—」

富山市科学文化センターに今年5月からオープンした新展示室では、生命にとって重要な物質「水」、富山に深いかかわりをもつ水や雪をテーマにしている。子どもたちが、楽しみながら実験ができ、体験を通して科学的な物の見方や考え方を深めていくことをねらいとしている。この展示の内容や実験装置の詳しい解説がまとめられている。B5判 19P.

問い合わせ先：富山市科学文化センター  
電話 (0764) 91-2123

## ○「高梁川流域のおいたち」(第2回特別展解説)

岡山県には、古生代から新生代にいたるさまざまな時代の地層や岩石が分布し、化石も豊富に産出されている。特に高梁川流域にはこれらの地層、岩石、化石のほとんどが見られ、岡山県の地史の縮図ともいえる。この特別展では、大地が時代とともに移り変わってきた様子を紹介して郷土の地史をより良く理解してもらう機会となるものである。会期は昭和60年8月1日～9月29日まで、展示内容をやさしく解説した解説資料（B5判、12P.）が用意されている。

問い合わせ先：倉敷市立自然史博物館  
電話 (0864) 25-6037

## ○「たばこと塩の博物館」(常設展示ガイドブック)

たばこと塩の博物館では、昭和60年1月に常設展示室の全面改装を終え、新にスタートした。これを機会に展示内容を紹介し、詳しい解説をくわえた展示ガイドブッ

クを作成した。写真や図表が数多く使われ、たばこと塩に関する資料集としても役立つように編集がされている。B5判 72P.

問い合わせ先：たばこと塩の博物館  
電話 (03) 476-2041

## ○「和歌山県の自然 I 海の生物」(展示解説第3集)

和歌山県立自然博物館の第一展示室に展示してある海洋生物をはじめ、和歌山県の海と生物、海と人々のかかわりなどを含めて、分かりやすく紹介している。単に展示の内容を解説するだけでなく、県下の自然全体を理解できる読みものとしても使え、多くの人に自然に親しんでもらえるように作成された。同館学芸課の労作である。B5判 147P.

## ○「親子のメダカの学校」第3回特別展解説書

—身近な自然、メダカの観察、メダカの学校—

和歌山県立自然博物館の特別展では、展示室内に小川をつくり、実際に生きているメダカを観察してもらいながら、身近な自然を観察する楽しさを親子で一緒になって知ってもらう展示を行った。この特別展の解説書には、野外での観察の仕方や、その基礎知識、メダカの飼育と観察の方法と記録の仕方などという、実用的な事柄と、メダカの種類とその分布や特徴に子どもの関心を広げていくように考えられている。メダカのことを楽しく学べるようにイラストや写真が多数使われており、分かりやすく解説してある。このメダカの観察から、博物館の展示ばかりでなく、身近な自然観察に興味を持って、親子で色々な動植物にも関心を持ってもらえるように配慮されている。

問い合わせ先：和歌山県立自然博物館  
電話 (07348) 3-1777

## ○特別展「灯台のしくみ特」(別展資料16)

和歌山市立こども科学館では、特別展「灯台のしくみ」(昭和60年7月20日～9月8日)を開催している。

この特別展は、身近な灯台の果たす役目と重要性をこどもたちも理解し、その歴史や航行の安全を守る人々の努力を知ってもらうことを、ねらいとしている。特別展資料は、展示の見学に参考になるだけでなく、実際に灯台を見たり、訪ねたりするときに知っておくと良い用語や事柄が分かりやすくまとめてあり、読み物としても十分に楽しめるように構成してある。B5判、24P.

問い合わせ先：和歌山市立こども科学館  
電話 (0734) 32-0002

年報、調査・研究報告

○「穂別町立博物館研究報告 第2号」1985.3

○「穂別町立博物館報 第1号」(昭和57～58年度)

○「富山市科学文化センター研究報告 第7号」1985.3

- 「富山市科学文化センター館報 第6号」1985.7
- 「埼玉県立自然史博物館研究報告 第3号」1985.2
- 「岐阜県博物館調査報告 第6号」1985.3
- 「府中市自然調査報告 一第14次調査一」1985.3  
府中市立郷土館
- 「山形県立博物館報告 一第5号一」
- 「ヤマガタダイカイギョウ発掘調査報告書」  
山形県立博物館
- 「秋田県立博物館研究報告 第10号」1985
- 「岩手県立博物館年報 昭和59年度」
- 「大阪市立電気科学館報 昭和59年度」1985.3
- 「五島プラネタリウム学芸報 第11集」1985.7
- 「鉱業博物館 第17号」昭和59年度  
秋田大学鉱山学部鉱業博物館
- 「岐阜県博物館報 第8号」1985.7
- 「東海大学海洋科学博物館年報 第12号」1985.3
- 「市立名古屋科学館 事業概要」昭和60年度
- 「美弥市歴史民俗資料館調査研究報告 第1号」
- 「国立科学博物館年報 昭和60年度」
- 「科学技術館 事業概要 昭和60年度版」1985.5
- 「埼玉県立自然史博物館研究報告 第3号」1985.2
- 「産業安全研究所年報」 労働省産業安全技術館

以上、事務局に連絡のあったもののみを掲載しました。

## 〔新 入 会〕

### 正 会 員

- 東海大学自然史博物館 館長 波部 忠重  
☎424 静岡県清水市三保2389  
東海大学社会教育センター内  
電話 (0543) 34-2385
- 南方熊楠記念館 館長 大西 邦雄  
☎649-22 和歌山県西牟婁郡白浜町3601-1 (番所山)  
電話 (0739) 42-2872
- 新潟県立上越科学館 館長 田中 正  
☎942 新潟県上越市下門前446-2  
電話 (0255) 44-2122

### 維持会員

- 有限会社 大 味 代表 高橋昭二郎  
☎116 東京都荒川区町屋6-6-5  
電話 (03) 892-2796
- 株式会社 芸 宣 代表 阿部 染子  
☎176 東京都練馬区旭町2-25-12  
電話 (03) 939-3221

## 東レ理科教育賞の応募について

東レ科学振興会では、理科教育の向上のために、創意工夫によって著しい成果をあげた理科教育の事例を毎年募集し、東レ理科教育賞として褒賞している。

第17回にあたる今年度は、10月15日を締切り（必着）で応募を受付中である。

応募対象となる教育事例は、中学校・高等学校の生徒などの理科教育上、「新しい発想と工夫考案に基づく」次のような事項である。

①生徒の科学に対する興味を高めるなど、よい環境をつくる指導展開のしかた。

②種々の実験法、器材の活用法、自発的学習の方法など。

③実験、観察、演示などの教材、教具（簡単な装置、得やすい材料、映画・VTR・スライドなど）。

これらは、科学博物館の職員が教育活動を実施するに当たって日頃から考え、悩んでいる事柄であり、応募に値する事例は数多くあると思われる。全科協加盟館園からの応募も年々増加しており、奮って応募していただきたい。

ただし、論説や提案だけでなく実績が必要とされ、博物館が主催するクラブ活動のような場合には、特に生徒の人間形成にどのように役だったかを記す必要がある。

なお、昨年度の「受賞作品集」が、刊行されているので、応募を検討する上で参考になる。所定の応募用紙は既に全科協加盟館園宛てに送付されているが、必要があれば、電話またははがきで下記宛てに申し込みください。

☎103 東京都中央区日本橋室町2-8 (三井6号館)

財団法人 東レ科学振興会 電話 (03) 245-5919

## 事 務 局 か ら

◇全科協ニュースでは、加盟館園で発行した特別展の図録やガイドブック、研究報告、ポスター等の出版物を紹介しています。事務局宛てに、ご連絡ください。順次掲載します。販売品の場合は、申込み先、代金や送料など必要事項も合わせてお知らせください。

☎110 台東区上野公園7-20

国立科学博物館内 全科協 事務局

## 訂正とお詫び

前号 (Vol. 15, No. 4) に誤りがありましたので、訂正して、お詫び申し上げます。

P.1 表1 2行目 INSホテル (誤) → INSホール

P.5 左 1行目 いろ有益な (誤) → いろいろ有益な